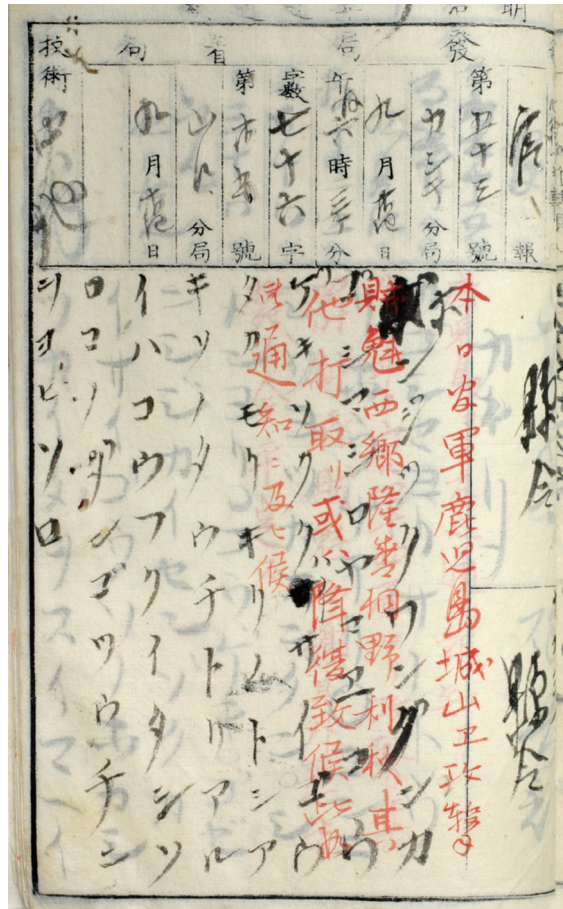


不平士族の反乱（西南戦争の電報）



* 県庁戦前A総務380「熊本県暴動電報原書」

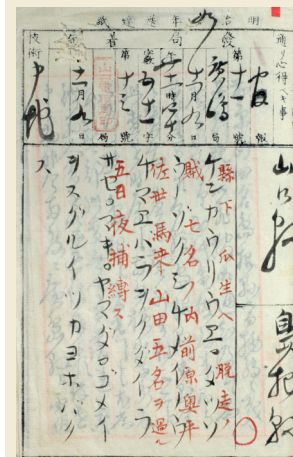
解説

明治維新の諸改革で特権を奪われた士族は、各地で武力による反政府の行動を起こしました。その最後にして最大のものが1877（明治10）年、西郷隆盛を中心に鹿児島県士族が起こした西南戦争です。半年を超える戦いの末、徴兵制によって作られた政府軍によって鎮圧されました。

戦況は新しい通信技術である電信により即時に各地に伝えられました。左の写真は1877（明治10）年9月24日午前6時30分に鹿児島県令から山口県令に対して送信された電報で、同日の政府軍の総攻撃により、反乱が完全に平定されたことを伝えています。

電文は次の通りです。「ホンジツクワンゲンカゴシマシロヤマエコウゲキソククハイサイゴウタカモリキリノトシアキノタウチトリアルイハコウフクイタシソロコノダンゴツウチニヲヨビソロ（本日、官軍鹿児島城山へ攻撃。賊魁西郷隆盛・桐野利秋その他、打取り或は降伏致し候。この段ご通知に及び候）」

この電報の前後に何通もの電報があわただしく打たれています。



* 県庁戦前A総務355「萩地変動一件 14」

山口県で起きた不平士族の乱である萩の乱に関して、前原一誠らの捕縛を伝えています。